

文京区子ども・子育て会議委員及び文京区地域福祉推進協議会子ども・若者部会員からのご意見と区の見解

No.	お名前	ご意見及び質問	区の見解
1	乾 委員 (文京区子ども・子育て会議区民委員)	1) 資料6 保育園の待機児童について、数か所しか希望を記載しなかった方などが待機され、実態として待機児童の定義に当てはまらないとのことでしたが、通勤ルート等から数か所しか候補になり得ない場合もあるかと思われます。「どこでもよければ入れる」体制から、「生活の質を考慮して必要な場所に子どもを預けられる」ことが本当の意味での待機児童解消につながると感じました。 質問ですが、直近の動きとして育休延長のための落選目的への入所基準厳格化が進められていると思われますが、待機児童数に影響する可能性があると考えられます。文京区はどのような対応をしていますか。 2) 資料7 学童に入れたにもかかわらず、新1年生での急激な環境の変化のため体調を崩したり、分離不安の出現などで学童に通えない児童が散見されています。ルールとして出席日数の割合等の規定などあると思うのですが、配慮措置等がありますか。 3) 資料2 若者計画 若者計画は対象者を母子保健施策とすみ分けている旨の説明がありましたが、子ども子育て計画のp59は母子を対象とした内容が記載されていたように感じました。重複してもよいのですが、若者計画なのであれば若者を対象としたアプローチが中身に反映されるべきと感じました。	1) 資料6 →(幼児保育課回答) 国による育児休業給付金の延長手続きが厳格化されたことで、従前より早期に復職を希望する家庭が増加することが想定されます。 文京区においては、直ちに保育所へ入所することを希望し、復職の意向が高い場合は、選考指数において優先する取り組みを行っております。 これにより、復職の意向に応じた保育所入所が叶うように努めております。 2) 資料7 →(児童青少年課回答) 現在、育成室への入室希望者が多い状況の中、保育の必要性の高い方を入室させる観点から、育成室の継続利用に必要な登室率を原則60%と定めております。 ただし、これまでもコロナ等の感染症による欠席については、登室率として算出する欠席には含めていないなど、継続利用の審査において登室率のみで一律に決定することではなく、様々なご家庭の事情を考慮し個別に判断しております。 3) 資料2 若者計画 →(子育て支援課回答) 資料第2－4号に関する(仮称)若者計画の「基本的な視点」について、今回お示しした構成(案)は項目名のみを記載したものであり、こちらは子育て支援計画(p.59)の内容を一部引用したのとなっております。 次回の第3回子ども・子育て会議においては、各項目について具体的に説明する文章をお示しします。こちらにつきましましては、若者計画の趣旨を踏まえたうえで、子育て支援計画の記載内容から変更し、母子を対象とした内容は含まれない文章にて作成する予定です。

		ご指摘いただきましたとおり、「基本的な視点」が若者を対象とした施策・事業につながるよう、引き続き内容の検討を進めてまいります。 4) 資料3-2 子どもの権利条約について、性の中身を性別・性的指向・性自認と差別の内容を具体化されていたのですが、日本ユニセフ協会のHPでは、性とだけ記載されていました。ダイバーシティに配慮した結果、具体的に記載するに至ったとの認識で間違いないでしょうか。 5) 資料4-3 「自分が大事にされているのはどんな時？」と子どもに考えてもらう機会があるのは大変重要なことだと感じました。一方で、親子の愛着形成が作れていない方や、傷つき体験が多いお子様には過酷な質問かもしれないとも感じました。リーダー会議の参加者には縁遠い可能性が高いですが、子どもの権利条約の普及という観点から、この設問の機会を設ける際には留意が必要と感じました。	ご指摘いただきましたとおり、「基本的な視点」が若者を対象とした施策・事業につながるよう、引き続き内容の検討を進めてまいります。 4) 資料3-2 → (子育て支援課回答) 文京区では、平成25年に施行した文京区男女平等参画推進条例の中で、性的指向、性自認に起因する差別的な取扱いの禁止を定めています。(仮称) こどもの権利に関する条例においてもこの考え方を明示するため、「性的指向、性自認」を追加しております。 5) 資料4-3 → (子育て支援課回答) 「こどもの最善の利益」を考えてこどもに関することを決めていく際には、必ずしもこどもの意見がそのままおるわけではないという現実があります。その場合には、なぜその結果になったかをこどもが理解し、「自分の意見どおりではないけれど、自分が大切に考えてもらった結果だ」と感じられていることが重要であると認識しております。 このため、第3回リーダー会議のグループ討議では、「自分が大切にしている」と感じるのはどんなときかをテーマにしました。 参加者に対しては、すぐに思いつかない場合は、 ・大人から理由を説明してもらった体験や、そのときどう思ったかについて ・どんなときにちゃんと説明してほしかったかなどを考えてもらうよう説明しております。 今後も、様々な状況の方がいることを配慮した進め方を検討してまいります。
--	--	--	---